

## 年金対話集会（令和7年度の年金対話集会実施結果）

# 「学生との年金対話集会」 令和7年度の実績について①

## ■ 令和7年度開催実績の概要

- 大学で25校、高校等で1校開催し、大学で27回、高校等5回実施した。
- 一部の大学では、厚生局や年金事務所と連携して開催。



2025年5月14日  
東北学院大学  
対話集会の様子



2026年1月21日  
埼玉大学  
対話集会の様子

## ■ 令和7年度開催実績

### 【大学】

東北学院大学 ※厚生局と共催

帝京大学

慶應義塾大学

青山学院大学

日本女子大学

流通経済大学

札幌学院大学

北海道大学・大学院 ※厚生局、年金事務所と共催

小樽商科大学

大阪大学

名古屋市立大学

中京大学(2コマ開催)

東北福祉大学 ※厚生局、年金事務所と共催

お茶の水大学

熊本大学

亜細亜大学

名古屋大学

東北大学 ※年金事務所と共催

駒澤大学

東北大学

関西学院大学

弘前大学 ※厚生局と共催

大阪樟蔭女子大学

埼玉大学

県立広島大学 ※厚生局、年金事務所と共催

### 【高校等】

早稲田大学高等学院

## ■ 過去開催実績

令和元年	大学6校
令和2年	大学9校
令和3年	大学24校、中学・高校4校
令和4年	大学23校、中学・高校2校
令和5年	大学36校
令和6年	大学17校、中学・高校7校

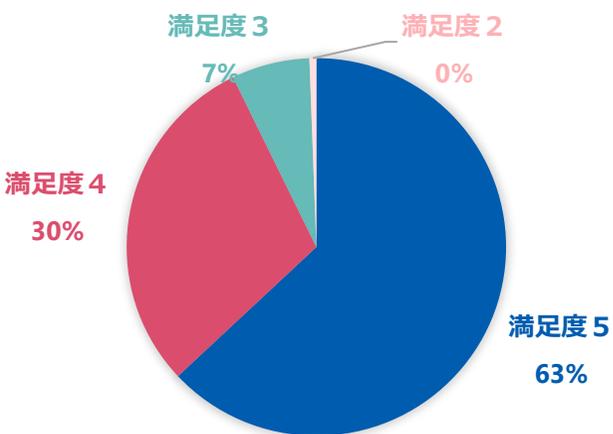
※令和7年3月時点。開催日程順。

# 「学生との年金対話集会」 令和7年度の実績について②

## ■ 学生対話集会の出席者の満足度及び理解度

### 【満足度】

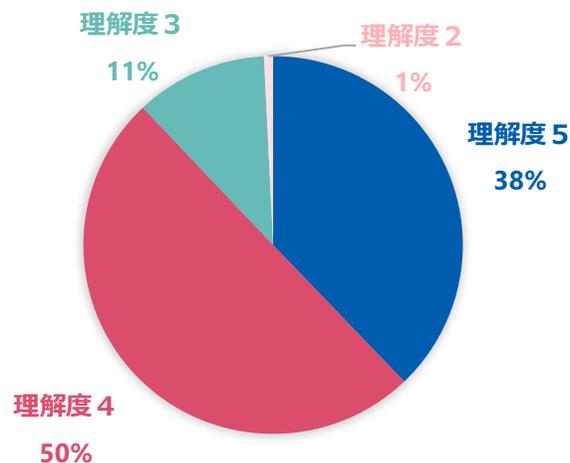
(不満) ←1-2-3-4-5→ (満足)



満足度5	322
満足度4	152
満足度3	34
満足度2	3
満足度1	0

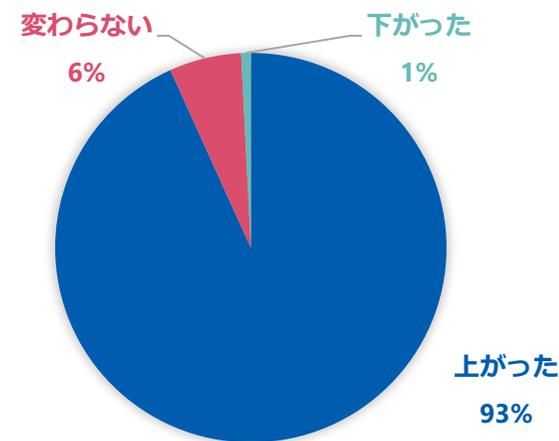
### 【理解度】

(不十分) ←1-2-3-4-5→ (十分)



理解度5	195
理解度4	258
理解度3	58
理解度2	4
理解度1	0

### 【信頼度の変化】



上がった	256
変わらない	15
下がった	2

(注) 令和7年度に開催した大学におけるアンケート結果を集計したもの。

# 「学生との年金対話集会」 令和7年度の実績について③

## ■ 令和7年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

・自分で貯金しておけば、年金は必要ないのではと考えていたが、今回の講義を通じて、**人生には予測できないリスクが多く存在し、個人の努力だけでは対応しきれない事態もあると知り、年金の重要性に気づいた。**

・これまでは制度が複雑で理解しづらいという印象が強く、将来本当に受け取れるのか不安が先行していた。しかし、今回の説明を通して**制度全体がどのように成り立っているのかを把握できたことで、不透明さが減った。**また、制度のメリットだけでなく現状の課題や財政面の問題についても隠さずに述べていた点が印象的だった。**制度に対する課題認識を共有したうえで、改善の取り組みや今後の方向性にも触れており、説明の姿勢に誠実さを感じた。この透明性の高さが、制度に対する信頼の向上につながった。**

・今回の対話集会を通じて、年金制度への信頼度は前より少し上がった。今まではなんとなく不安というイメージしかなかったけれど、基礎年金の仕組みや財源、マクロ経済スライドの役割を聞いて、ちゃんと仕組みがあることが分かった。しかし、**老後の年金だけの生活では厳しいことも分かったので、自分で貯金や投資など準備できることはすべきだと思った。**今はまだ先のことだと思っていたけれど、将来困らないように早めに考えておくのが大事だなと感じた。

・今回の特別講義を受ける前は、「自分が将来受け取れるのか」「制度が破綻するのではないのか」という漠然とした不安が強かった。しかし、給付水準の調整や積立金の存在、国庫負担の割合、そして5年ごとに財政検証を行う仕組みなど、**制度が長期的に維持されるよう多角的な対策が取られていること**を知り、以前より**信頼感が高まった。**ただし、信頼度が完全に回復したわけではなく、将来の経済状況や人口動態に左右される部分が大いことも事実であるため、「**制度は維持されるが、給付水準は確実に変化する**」という**現実を理解したうえで、自分自身の資産形成も必要だ**と考えるようになった。

・年金について将来もらえないのではないかと不審に思いながらも納めていたが、**年金制度だけではなく社会の構造や価値観を新しくしていく過渡期にある**と思った。

・私たちが年金を貰う年代になったとき年金制度がどれほど確固たるものであり続けてくれるのか不審でしかない。**少子高齢化は数年で変わる問題じゃないからこそ考えないといけないことが沢山ある**と思った。

・正直年金制度に対して否定的なイメージがあったが、今回を通して年金制度に対する否定的なイメージがかなり払拭された。公的年金は生涯にわたる保険なのだと思うことが出来たが、話をお聞きするまでは現役世代が高齢者を養う制度で自分にも将来メリットがあるとはなかなか考えられなかった。**公的年金は自分のためでもあるということを改めて意識としてもたせることが必要なのではないかと考えた。**

・今の若者はほとんどが年金や税金に対して、不信感を持っていると思う。今回のような**身近な疑問に対し、わかりやすく知ることができる機会が増えれば皆も納得しやすくなるのではないかと考えた。**皆が平等になるようにした結果、お金がある人とない人で金額が変わったり、私たちが将来もらえる**年金は現代とは違う金額でも価値は同じだったり、皆の理解を得るのは難しい問題だ**と思った。

・SNSではネガティブな意見が多いため、勉強になった。特に、積立金の運用が上手くいっていることはお話を伺う中で初めて知った。**国民基礎年金の額について、老後の必要額に対する低さには少し不安が残った。**

・意義は分かった。遺族や障害を抱えた時やインフレに対しては強いということが分かった。しかし、いかんせん若年層の初任給平均20万前後に対しては**年金が高すぎる**と思う。

・制度の仕組みを理解し、以前より**信頼できる部分もあると感じたが、将来への不安は残った。**それでも何を知らない状態よりは信頼感は上がったと思う。

・**マクロ経済スライドは年金制度を破綻させないための仕組み**と読み取った。給付額は減るため、ある意味破綻と言えるのでは。投資を紹介するのは、老後は年金では足りないためその足しにという考えがあると感じた。